

東日本大震災から、五年目の三月です。昨年一年間の「おかげさま献金」を、気仙沼の海岸を整備するための「海の里創造基金」に送金しました。

東北の海岸の復元や、植樹をすすめるグループはいくつかあります。その中からこの基金を選んだのは、以前松岩寺の本堂で音楽説法をしてくれた片山秀光師が深く関わっているからです。おくられてきた礼状には次のように書かれています。「海岸復興整備に着手出来る状態ではないため、今年度実際の活動は出来ていない状態です。皆様からの支援金はそのまま次年度に繰り越し海岸整備の活動に約立てまいります」

東北の今が報道されることは、ずいぶん減ってきましたけれど、まだまだ復興にはほど遠いようです。壇家の千田完治さんが撮影した写真を掲げました。陸前高田市の一本松です。千田さんは岩手県出身です。「白砂青松」という言葉があるけれど、震災前は見事な松林だったのでしょ。

でも、松林は原生林ではありません。人工林です。だから、「昔は30〜40年のサイクルで全部切った。そうしないと老木が病虫害などにやられ、松林全体が衰退してしまう」。そして、伐った材は「建築用材にするだけでなく、煮炊きの燃料にし、落葉は肥料にした」と、新聞記事（日経・H28. 2. 12朝刊）にありました。何も無駄にしない完全



撮影 千田完治

見つけた!

リサイクルです。

でも、松材で建てるような家はめったにない現代です。植えて、育てて、使いきる。そんなサイクルが寸断されてしまったから、日本のどこへ行っても車窓からは、虫に喰われて赤く変色した松林が見えます。

さて、松岩寺の宗派は臨済宗です。臨済宗の創始者は臨済禅師（?〜866）です。禅宗は中国から輸入された宗派ですから、臨済は中国生まれです。こんな逸話が残されています。

ある日、禅師が岩ばかりの険しい谷に、松の苗木を植えています。お師匠さんが尋ねます。「なんで、こんな山奥に松を植えるのだ」

臨済はこたえます。「ひとつには景観をよくするため。もう一つには後生の人への道しるべのため」

「巖谷に松を栽える」と呼ばれるエピソードで、松岩寺の名前の由来もここににあります。

今年は、臨済禅師が亡くなられて1150年になります。それを記念していくつかの催しが計画されていますが、「非公開文化財特別公開」と題して、京都の妙心寺・南禅寺・建仁寺などで普段は拝観謝絶の庭園や建物が拝観できます。

興味のある方は行ってみて！本山妙心寺の宿坊・花園会館もお安くなっています。

そうして集めた凄いものの中に、「釈迦金棺出現図」があります。お釈迦さまが亡くなられたのを知った仏母・摩耶夫人が、天界からかけつけたという説話を描いた仏画です。平安時代の作品で、縦が百六十センチ、幅二二九センチの大きな軸物です。国宝に指定されています。

そんな名品が、安左工門の手に入ったのは、昭和三十六年春。価格は五千万円とも。現代ではいくらになるのか。その図も福岡市美術館にあるかという、これは京都国立博物館に所蔵されています。

なにしろ、国宝中の国宝ですから、ゆかりある京都にとどめ置かれたといえます。これとても、遺族から国への寄付です。国家予算で買い上げてもらうという方法もあつたらうに、潔い相続放棄です。

さて、こうした仏画や仏像は、お寺にあれば信仰の対象ですが、美術館にあると美術品になってしまふ。美術館に収められている事情はそれぞれです。

寺院などが管理しきれないので、預けている場合もあります。あるいは、「釈迦金棺出現図」のように売買されてしまったという悲しい例もあります。もう一つ、明治初年の廃仏毀釈で災難を逃れて、流失したというケースもあります。

この廃仏毀釈を調べているうちに、面白くて凄い人物に出会いました。そのことは、また改めて！

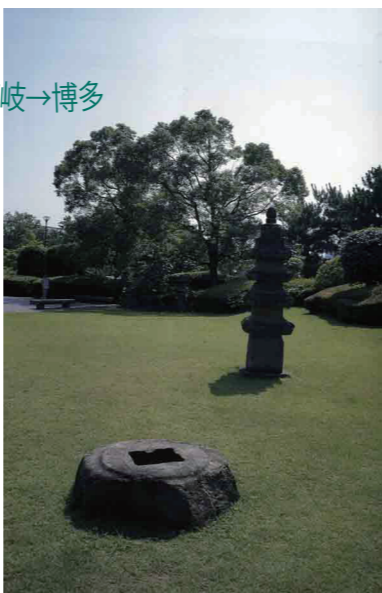
九州・壱岐と博多の旅

昭和の大実業家・松永安左工門翁ゆかりの地と

日本で最初の禅寺・聖福寺を巡る

5/21~23

羽田→福岡→壱岐→博多



ところで、右に掲載したのは今回のコースにもはいつている、福岡市美術館の庭の写真です。前方にあるのは「太宰府礎石」で、後は「新羅石塔」と説明されています。

つまり、千年以上昔の建物の基礎石と、同じ頃の韓国の石塔です。ふたつとも、松永安左工門のコレクションでした。没後、収集品の大部分が福岡市美術館に寄贈されます。その数、324点。

しかし、寄付された以外の収集品には、贋作もふくまれていたといえます。安左工門には、鑑定眼がなかったのか。ちがうのです。にせ物と承知して、買っているのです。なぜ、そんなことをしたのか。

懇意な古美術商が、にせ物を持ってくるにはそれなりの事情があるわけです。困っている時に助けてあげないと、本当に凄いものの情報が安左工門を素通りしてしまうから。